

## 自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：12608

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730128

研究課題名 (和文) 人材配置の歪みとマクロ生産性の関係についての教育経済学的考察

研究課題名 (英文) On the Relationship between Human Resource Allocation and Macroeconomic Productivity: An Educational Economic Approach

## 研究代表者

田中 隆一 (TANAKA RYUICHI)

東京工業大学・大学院情報理工学研究科・准教授

研究者番号：00397704

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：人的資本蓄積・人材配置・教育制度

## 1. 研究計画の概要

高等教育機関の重要な機能の一つは人材選抜機能と考えられ、このような選抜機能の強化が、歪みのある経済の生産性にどのような影響を与えるかを考察することで、歪みのある経済における最適教育政策を論じる。さらにこの研究において、ミクロレベルでは実証的に観測される正の教育投資の収益が、マクロレベルでは観測されなくなるという、いわゆる教育収益率のミクロとマクロの乖離を説明する一つの可能性として、政策の歪みの果たす役割についても分析する。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 職の異質性と人材の異質性がある経済において教育投資の問題を分析した Takii and Tanaka (2007) の理論モデルを拡張し、労働者の生産性が不完全にしか観測されない場合の定性的な分析を行った。

(2) 理論モデルに基づいた、数量的分析へ向けたデータ調査および収集も合わせて行ってきたが、その中でも特に、産業選択や就業形態選択における学歴の重要性に関する実証分析を同時に進めた。

## 3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。  
(理由)

高等教育における人材選抜がマクロ生産性に与える影響を分析する基本モデルの構築は概ね完了している。また、最適教育政策を数量的に分析するために必要なミクロレベルのパラメータの蓄積もある程度進めることができた。

## 4. 今後の研究の推進方策

基本となるマクロモデルの数量的分析、およびそれに基づいた最適教育政策の考察を行ってゆく。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

- ① Julen Esteban-Pretel, Ryo Nakajima and Ryuichi Tanaka, "Are Contingent Jobs Dead Ends or Stepping Stones to Regular Jobs? Evidence from a Structural Estimation," *Labour Economics*, 2011, In Press, 査読あり
- ② Julen Esteban-Pretel, Ryo Nakajima and Ryuichi Tanaka, "TFP Growth Slowdown and the Japanese Labor Market in the 1990s," *Journal of the Japanese and International Economies*, 24, 50-68, 2010, 査読あり
- ③ Katsuya Takii and Ryuichi Tanaka,

"Does the Diversity of Human Capital Increase GDP?: A Comparison of Education Systems," *Journal of Public Economics*, 93, 998-1007, 2009, 査読あり

- ④ Catalina Gutierrez and Ryuichi Tanaka, "Inequality and Education Decisions in Developing Countries," *Journal of Economic Inequality*, 7, 55-81, 2009, 査読あり

〔学会発表〕（計1件）

- ① 田中隆一 "Are Contingent Jobs Dead Ends or Stepping Stones to Regular Jobs? Evidence from a Structural Estimation" (joint with Julen Esteban-Pretel and Ryo Nakajima), 日本経済学会春季大会, 2009年6月7日, 京都大学

〔図書〕（計2件）

- ① 田中隆一・杉山一成 「若年男性労働者の就業形態選択行動：慶應義塾家計パネル調査を用いた動学最適化モデルの推定」慶應義塾大学出版会, In press.
- ② 島根哲哉・田中隆一 「母親の就業が女性労働供給に与える影響について」東京大学出版会『ワークライフバランスと家族形成』（樋口美雄・府川哲夫編）2011, 123-142.